

慰心堂

第 4 号

財団法人 大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議会
〒105-0001 港区虎ノ門3-6-8
第6森ビル5階
電話 03 (5405) 1838
FAX 03 (5405) 1839
http://homepage2.nifty.com/ireikyou
振替口座 00140-6-334930
編集人兼発行人 小田原 健児

年頭の御挨拶

会長 瀬島 龍三

明けましておめでとうございます。皆様には、ご健勝で、希望に満ちた新春をお迎えのことと拝察申し上げます。

昨年一年を振り返りますと、先ず、国民が久しく待望しておりました皇位継承の親王ご誕生は、秋に悠久親王殿下ご誕生と言う大慶事があり、皇統継承の将来は明るく揺るぎないものとなりました。皆様と共にこの大慶事を謹んでお喜び申し上げたいと存じます。

また、長く続いた我が国の景気低迷は漸く上向きに転じ、国内一般社会の空気も大いに明るいものを覚えるところであります。

国内政治の面では、戦後生まれの安倍総理の内閣が九月に発足致し、これも明るい話題と言えましょう。まだ発足早々であります。憲法問題等真剣に取り組んで行くこととする姿勢には大いに期待するところであります。

このような明るい話題の裏にも、多くの暗く困難な問題がありました。特に北朝鮮のミサイル発射、核実験や、中東における紛争の長期化等は、大いに懸念され、また関心の持たれるところであります。

こうした世情の中で当協議会は、昨年は創立一周年を迎えましたが、皆様方の御支援御協力によりまして協議会の業務も順調に展開し、皆様方に感謝申し上げているところでございます。

先の大戦を終わりに既に六十二年にありますが、忘れてならないことは、今日の我が国の豊かで平和な生活を築く礎となった多くの戦没者がいたと言ふことであり、これら戦没者は同胞の繁栄を願い我が国の安泰を祈って戦場に散った方々であります。私どもは今日の豊かで平和な生活に浸る中で、ともすればこのような戦没者の方々があつたことを忘れることが多くなっております。



瀬島 会長

当協議会は、このような全戦没者の慰霊事業を将来にわたって永続するよう設立されたものであります。こうした慰霊事業を将来とも永続するために、この協議会の運営基盤を組織的に、この協議会に堅実なものとする必要があります。当協議会では、設立以来、その組織的、財務的運営基盤を確実なものとするため多大の努力を積み重ねて参っております。幸いにして皆様方の御協力によりまして、逐次その努力は稔りつつあるところであります。本年度以降におきましてもこの努力を継続し、そして全戦没者の偉業を称え追悼の誠を捧げる慰霊事業に努めて参りたいと考えております。どうか今後とも皆様方の御支援御協力をお願い申し上げます。次第であります。

平成一九年元旦

財団法人

大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
会長 瀬島 龍三

千鳥ヶ淵戦没者墓苑 秋季慰霊祭

千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、現在35万余柱の戦没者御遺骨が納められ国民的慰霊施設になっているが、この墓苑では毎年、春の候に厚生労働省主催の拜礼式、秋には千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会主催の秋季慰霊祭が行われる。本年もこの秋季慰霊祭が、10月18日（水）午後執り行われた。

この日、天気晴朗で風もなく慰霊祭を執り行うには絶好の日となった。また、綺麗に清掃された墓前には、本日この慰霊祭に御臨席される高円宮妃殿下がお供えされた大花籠が飾られ、その大花籠に続き、内閣総理大臣他各方向から贈られた生花と供物が所狭しとお供えされていた。



墓前で黙とうされる高円宮妃殿下



総理大臣の追悼の辞（代読）

悼の辞（内閣総理大臣）と続いた後、高円宮妃殿下が墓前に進まれ拜礼され黙祷を捧げられて式場をご退席になられた。

奉納行事の中で音羽ゆりかご会の小さな子供さんが一生懸命に童謡唱歌を奉唱していたが、「私の父さんいつ帰る」と歌う幼い声に、終戦の頃を思い出して目頭を熱いものを覚えた。

内閣総理大臣の追悼の辞は、下村官房副長官が代読したが、総理はこの追悼の辞の中で「今なお海外に眠る御遺骨を日本にお迎えすることが政府の責務である」と決意を新たに」と述べ、更に「今日の平和と繁栄は戦没者の尊い犠牲と戦後国民の努力の上に築かれたものであり……国際社会の一員として世界平和の確立に全力を尽くすことを誓います」と平和への努力を強く表明していた。

また、奉仕会会長の式辞は、瀬島会長病気のため藤森副会長が代読したが、この式辞で瀬島会長は、「財団法人千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会は発足以来微力ながら戦没者慰霊の輪が国民に広がるよう努めて参りました。……今後とも慰霊奉賛の灯火を守りこれを次の世代に伝える努力を続けて参りたい」と将来も慰霊奉賛の努力を継続することを表明していた。

慰霊祭は、約1時間で終わり、式典終了後、参列者は、墓前に備えられた焼香台の前で戦没者の冥福を静かに祈りしていた。

特攻平和観音奉賛会主催 特攻平和観音年次法要

9月23日（土）、彼岸中日にあたるこの日、特攻平和観音奉賛会（会長山本卓真氏）主催により、第55回特攻平和観音年次法要が世田谷観音寺で催行された。

この日、曇り空ながら秋気漂う観音寺の境内に遺族約50名の他、一般参列者約200名が参集して、慰霊法要は催された。

慰霊法要は、定刻14時、梵鐘点打と共に開始され、浅草寺法田光順大僧正以下の式衆が特攻平和観音堂に着座した。参列者全員の国歌斉唱の後、観音寺太田賢照住職は、「……特攻勇士の諸霊は正に忠烈の亀鑑なり。諸霊が父母の恩愛を断ち、大忠、大孝、大義、大勇に徹せし崇高無比なる境涯に相対せんか誰か万斛の涙なきを得んや……」との特攻平和観音経を奏上して、特攻で散った諸霊の功績を称え追悼の誠を捧げていた。

この慰霊法要には、石橋一歌氏の献吟、世田谷区民合唱団の献歌、世田谷区民吹奏楽団の奉納演奏、海軍軍装会ラッパ隊のラッパ吹奏等多彩な慰霊演奏が行われ、特攻諸霊の御霊安かれとお祈りしていた。



特攻平和観音堂で慰霊法要



千鳥ヶ淵戦没者墓苑（秋季慰霊祭）



靖国神社（協議会創立1周年記念慰霊祭）

